

(様式)

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名 三木市立自由が丘東小学校

1 学校教育目標

心豊かに 健やかに 夢に向かって学び続ける子の育成 ～考える子・思いやる子・やりぬく子～

2 本年度の重点目標

- | | |
|---|---|
| 1 保護者や地域の願いを大切にしたい信頼される安全で安心な学校づくり
2 互いに認め合い、助け合いながら共に伸びようとする仲間づくり
3 基礎的・基本的な力の定着、考え合い話し合う学びの場づくり | 4 児童一人一人に寄り添い、個々の課題に応じたきめ細かな指導の場づくり
5 教職員の同僚性を高め、協働的に取り組む職場づくり |
|---|---|

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	○「読む・書く・話す」力を育むための授業を研修・実践していく。	○ 研修を継続して、「読む・書く・話す」力を育むための授業づくりを進めることができ、児童の様子からも一定の成果が窺える。一方、「読む・書く・話す」力における個人差に応じた授業づくりについての検討を進める必要がある。	B	○ 読む・書く・話す力、それぞれの観点において、具体的にイメージして、授業づくりを行うことを継続する。また協働的な学びを進めながらそれぞれが自身の考えを修正しながら学習を進めることに取り組む。
	○ 学習目標の共通理解、くんぐんタイム、コグトレを通して基礎学力の定着を図る。	○ 学習目標を設定するとともに、達成に向けた方策について、教員間で具体的に話を進めることができた。くんぐんタイム、コグトレについてはルーティン化することができ、基礎学力の定着に向けて取り組むことができた。		○ 学習目標について、児童とともにふり返る活動を取り入れ、目標をより意識して学習できるようにする。くんぐんタイムでは基礎的な課題とともに、読解力の育成に向けた課題に取り組む。
	○ ICTを活用し、基礎学力の定着と共に、協働的な学びや自由進度学習を進める。	○ 研修を継続して行うことで、タブレット活用の幅が広がった。今年度は協働学習場面での活用が広がったことは成果であるといえる。3年生以上では自由進度学習に取り組むことができた。内容については今後も検討・改善が必要である。		○ ICT活用法を教員間で共有することで、さらなる活用の広がりをめざす。自由進度学習については今後もやり方を検討しながら進める。特に知識獲得の過程で思考力が高まる方策について検討する。
特別活動	○ 充実感や成長を感じることができるような学校行事を実施する。	○ 児童会を中心に児童が意見を出し合って東っ子オリンピックや音楽会のスローガンを決めることや、高学年児童が会の運営などを担うこと、他の学年の演奏を聴き合うことにより、充実感や行事を通じた成長を感じることができた。児童の自主性を培う行事とする工夫が課題である。	B	○ 練習時より肯定的な声かけを重ねることや、内容を工夫する等、より児童の意欲や満足感を向上させる行事を実施する。
	○ 児童会を中心として、児童が自ら課題を見つけ、解決しようとするような活動を計画し、取り組む。	○ 各クラスからあげられた学校での困りごとなどについて、児童会を中心として話し合い、解決するために各委員会と協力してポスター掲示や児童集会で啓発するなどの活動を行った。		○ 今年度の活動を踏まえて年間計画を立て、見直しを持って活動できるようにする。児童会各委員会の自主的な活動・活性化を図るための肯定的な声かけや活動を継続する。
	○ 環境体験学習や校外学習、金物体験などの体験学習を推進する。	○ 環境体験や金物体験では、講師を招聘し本物に触れる活動を行った。また、校外学習や修学旅行、自然学校では、ボランティアやガイドを依頼し、様々な説明や経験を聞くことで、貴重な学習を行うことができた。		○ 今年度に引き続き、外部の人材を上手に活用しながら、子どもたちの実態にあった体験活動ができるよう、内容を精選し実行していく。
道徳・人権教育	○ 道徳教育の充実のために、授業の工夫改善に努める。	○ 年度当初に立てた指導計画をもとに計画的に学習に取り組んだ。また、親子人権学習や人権講演会を通して、地域や家庭にも人権意識向上の啓発を行った。	B	○ 授業力向上のため、さらなる研究と昨今の課題を反映した心に響く授業づくりを行う。
	○ 思いやりに満ちた仲間づくりを推進し、自他を認め合う心と態度を育てる。	○ 仲間づくりは、学級経営に寄与するところも大きい。年度当初に計画を立て、学期ごとに見直しを行い、思いやりのある学級づくりに努めた。しかし、まだまだ児童同士の心無い言葉やトラブルは多く、子ども同士で折り合いをつけることができるよう指導していきたい。		○ 児童同士のトラブルや問題を解決するため、普段の児童理解に努め、また多くの目で見守り、丁寧に指導し、児童と向き合う時間を確保する。
	○ 仲間はずれやいじめを許さない人権意識を高め、毅然とした態度やチームで対応する。	○ 職員研修等で、子どもの人権を守るための意識の在り方を再確認し、振り返り、指導に生かすよう努めた。		○ 全ての教育活動の根幹に、人権を大切にすることを据える。差別は絶対に許さないというメッセージを、常々児童に伝え続けていく。また、教師自身が人権意識の高い職員集団となり、鋭い視線で児童を見守りたい。
特別支援教育	○ 家庭や関係機関と連携し、支援の必要な児童の情報共有を図る。	○ 家庭・関係機関・教師間の連携をもとに、児童の課題を明らかにし、手だての検討や実践に努め、インクルーシブ教育システムの構築に努めた。必要に応じてケース会議を設けて、家庭と関係機関(教育相談・通級指導等)をつなぐ働きかけを行い、すべての子どもの学びの保障に努めた。	A	○ 家庭・関係機関との連携、教師間の連携をもとにした、インクルーシブ教育システムの構築を継続して行う。必要に応じて、ケース会議を開き、児童の実態に応じた支援方法と環境づくりの検討を継続して行う。
	○ 支援を要する児童についての共通理解を進め、支援の充実を図る。	○ 2学期より特別支援教育校内委員会を定期的に開催し、個別の指導計画を基にした児童の手立てについて共通理解する機会を設けた。さらに、児童の実態に合わせて必要な支援が得られるよう、組織での対応の強化を図っている。		○ 特別支援教育校内委員会の活性化を図り、児童理解と支援について共通理解する機会を設ける。委員会の役割を明確にし、ケース会議ともリンクして、チームとして取り組み、家庭や関係機関との連携を図っていく。
生徒指導	○ 日頃の生活指導を充実し、基本的な生活習慣の大切さを意識して生活できるような取組を推進する。	○ 毎月の生活目標に「あいさつ」の文言を取り入れ、毎日、教職員が進んであいさつを行うとともに、終わりの会で振り返りを行うことで児童のあいさつへの意識を高めた。	B	○ 「あいさつ」の励行については、教師が率先垂範するとともに児童からの啓発活動が起きるような活動の工夫を続ける。下校時に安全に帰ることを意識できるように教職員間で共通理解し、指導を続けていく。
	○ いじめ・不登校に関する事案に対応する体制の充実を図る。	○ 日頃の生活指導(あいさつ・校内での過ごし方・登下校の様子等)について、定例の委員会で確認し、教職員間の共通理解を図るとともに、気になる様子や問題行動があれば、教師間で連絡を密に行い、ケース会議を実施し、家庭と学校、学校内、又、関係機関との密な連携を図ることで、児童を支援した。		○ いじめ・不登校をなくすため、未然防止、早期発見、早期対応を連絡を密にし、すぐにだれがどのように対応するか、また、いじめ不登校が起きない風土づくりをチーム学校として行えるように取組を継続して行うとともに、関係機関との密な連携を図る。
	○ 児童理解解アンケートやカウンセリングを行い、児童の内面理解推進に努める。	○ 学期ごとに心のアンケートを行い、気になる内容について、聞き取り対応した。さらにカウンセリングを進めるなど、児童の内面理解に努めた。		○ 児童の多面的な内面理解のため、教職員間で連絡を共有し、児童に寄りそった指導に努める。
保健・安全 防災教育	○ 緊急時の救急体制を充実させ学校安全の推進を図る。	○ 食物アレルギーや医療的ケア、水泳指導にかかわる救急法など訓練を市教委や消防の指導助言を受けながら計画実施した。反省を生かし全職員がシミュレーションできるよう机上訓練にも挑戦した。	B	○ コロナ後の健康管理について、手洗いや換気、咳エチケットなどは感染症予防に有効なので、症状に合わせて引き続き呼びかけている。救急法の訓練については緊急時に迅速に対応できるように今後も工夫して計画実施していきたい。
	○ 児童自ら健康・安全を守るため保健指導や保健相談等を行う。	○ 保健室来室時に日頃の生活習慣や学校生活の振り返りをさせ、同じようなけがや病気を起こさないよう個別の保健指導をしている。また、登校しにくい児童の小休止として保健室で休息した後、教室へ戻るよう支援している。		○ 学校保健委員会で子どもたちの変化について検討した。タブレットなどのスクリーンタイムが増えていることから今後、視力低下が考えられるため、健康面からタブレット活用について指導するとともに、腰痛タイムやなわとび集会などの体力づくり等を引き続き啓発していく。
	○ 学校施設点検を毎月行うと共に、定期的な登下校指導を含む交通安全指導を徹底する。	○ 毎月、学校施設の安全点検を行うとともに、登校時の声掛けや下校時の見守りなどを実施している。また、5年生児童が国語科の学習を生かして、毎月校内の安全な生活を呼びかける放送等を行った。		○ 登下校時の登校班の並び方や通学路の歩き方など、学級指導や地区児童会でも指導している。下校時に道に広がる等の課題があるため下校指導を強化していかなければならない。
教職員の研修と 資質向上	○ 未来を創る学力育成を実現するために、算数科を中心とした研究を進める。	○ 算数科を中心とした研究を進め、一人一研究授業を実施し、講師を招いた全体研修をした。児童の課題に取り組む意欲の向上を感じることができた。さらに、読解力や書く力を伸ばし、よりよい協働学習を進めていくことが課題である。	A	○ 教科担任制を進めるにあたり、算数科研究での成果と課題を生かし、どの教科においても、児童が意欲をもち試行錯誤を重ねていくような課題設定や学習方法、読解力や書く力の向上を図る授業づくりについて研究を進めていく。
	○ 教職員の危機対応力を向上させるため、救急救命研修や災害対応訓練を実施し、反省を共有して内容改善を図る。	○ アレルギーをもつ児童・医療的ケアを要する児童についての共通理解研修及びシミュレーション研修、救急法及び水泳指導シミュレーション研修などを実施した。それらの研修の反省を共有して、担当が内容を改善を図るようにした。		○ 児童についての共通理解を図る研修を毎年実施し、シミュレーション研修では具体的な場面設定のもと、様々な状況を想定して実施する。
	○ 小中一貫教育研修で、めざす児童生徒像や課題を明確にし、校内での教育活動に生かす。	○ 中学校区の研修会で、施設一体型の小中一貫教育の実践について学んだ。また、めざす生徒像に向かう「主体性・協働性・創造力」について各校の取組等の情報共有をしたり、生徒指導・研究推進等の担当別の協議をしたりした。		○ めざす児童生徒像に向かうための課題について共通理解を図り、各校の取組を中学校区で交流する。特に教科ごとの部会でのカリキュラム作成を通して学習内容の系統性を確認し、授業改善に役立てる。
家庭・地域との 連携	○ 家庭・地域との連携を強化する。	○ 多様なPTA活動が企画、推進された(奉仕作業、とんど集会、学年行事等)。それぞれの活動時にはボランティアの参加を募り、多くの保護者の協力のもと、PTA活動が実施された。地域で起こった不審者情報など情報共有を図った。	A	○ PTA親子行事やゲストティーチャーの招聘など、保護者や地域の方とのふれあいを大切にしたい体験学習等を実施する。
	○ 学校からの積極的な情報発信や学校公開による開かれた学校づくりを目指す。	○ 毎月、学校通信、学年通信等を保護者の方に向け発行し、「すく〜る」で配信した。また、ホームページを随時更新し、学校の取組を発信した。今年度は人数制限を設けず、学校行事やオープンスクール等多くの方に来校いただいた。		○ より有益な情報提供となるための(個人情報の取扱いに注意した)「学校ホームページ」の随時更新、「すく〜る」を活用した積極的な情報発信に努める。
	○ 家庭・地域からの声を大切に、地域とともにある学校づくりを目指す。	○ 地域行事や公民館活動に積極的に参加し、地域の方との連携を図った。区長様、民生児童委員様、青少年輔導委員様、PTAの方々や情報共有する場を設け、地域の課題等話し合うことができた。		○ 学校評価アンケートの意見や、保護者や地域の方々の連携から得た情報や課題を前向きに受け止め、保護者や地域の方、児童にとって魅力があり励みとなるオープンスクール及び学校行事の開催を目指す。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

【自己評価方法は適切である】
 24の評価項目が設定され、取組(達成)の状況により、適切に評価されている。児童・保護者・教職員アンケートの実施による評価結果やその考察をもとに非常に細かく評価されているため、自己評価方法は適切であると言える。具体的に達成状況が書かれているためわかりやすい項目もある。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>【評価Bは適切ではある】 昨年度の研修を継続するとともに新たに「読む・書く・話す」力を育むための授業づくり」という共通理解のもと、全教職員で学習指導に取り組み、児童の様子から一定の成果がうかがえることは評価できる。また、児童アンケート「授業中、自分の考えを深めたり、広げたりできましたか」のポイントが4ポイント向上していることから評価できる。 評価項目をより具体化し、取組の状況に数値があると評価も分かりやすくなると考える。</p>
<p>【評価Bは適切である】 児童会を中心に東っ子オリンピックや音楽会のスローガンを決めていること、高学年児童が会の運営などを担うことなどにより、児童が達成感や充実感を得ることができたこと、また保護者や教師が行事を通じた児童の成長を実感できたことなど、アンケート結果からも分かり、評価できる。 児童の意欲や満足感を向上させるとともに、主体性を培う行事の持ち方について検討いただくよう期待したい。</p>
<p>【評価Aにすべきである】 「特別の教科 道徳」は、年間計画に沿って計画的に実施、評価されている。教職員アンケートの「規範意識や道徳的判断力を培う授業づくりを行ったか」「互いを思い合い、相手を大切にすることを育てたか」の項目においてポイントが向上していることから、教員間の相互研修を深め、授業力向上に努められていることが分かり、評価できる。 配慮を要する児童の実態や指導方法について、全職員で共通理解を図り、支援体制を整え対応にあたるなど、教職員間の連携がとられていることが評価できる。 児童や教職員の人権意識の向上を図るよう今後も努められたい。</p>
<p>【評価Aは適切である】 特別支援委員会が定期的に開催され、支援の必要な児童にかかる情報共有等が密に行われている。また、児童の実態に合わせて必要な支援が得られるよう、組織での対応の強化を図っていることが評価できる。 今後も学校、保護者、関係機関と連携しながら継続した取組に努められたい。</p>
<p>【評価Bは適切である】 毎月の生活目標による意識付け、日々の自己の振り返りの取組により、児童のあいさつへの意識付けができていく。引き続き指導を続けていきたい。 学期に1回、「心の健康観察」を実施し、児童の実態把握を行い、内面理解に努めていること、特にいじめ・不登校対応については、関係機関と連携し、初期対応やケース会議にしっかり取り組まれている。支援体制が十分構築できていることは評価できる。 「学校が楽しい」と感じる児童が増えるように、今後も教職員全体で児童一人一人の把握・分析に努め、適切に対応されたい。</p>
<p>【評価Aでもよい】 避難訓練や、医療的ケアが必要な児童へのシミュレーション訓練を複数回実施するなど、危機対応の研修がなされている。そして、研修で身につけたことが、緊急対応時に適切に活かされたということが評価できる。 5年生の子どもたちが学校の安全を守るために学習した内容を校内放送で全校生に呼び掛けるなど自主的な活動が行われているのもよい。 学校保健委員会で検討された子どもたちの課題について、改善策を講じるとともに保護者へ啓発にも努められたい。に取り組んでいただきたい。 姿勢改善、体力向上の取組も工夫し実施されている。継続して取り組まれたい。</p>
<p>【評価Aは適切である】 先生方は様々な内容の研修に取り組まれており、特に算数科の学習については、児童の課題に取り組む意欲を感じることができたことと評価していることがよい。今後も、課題である主体性や協働性、想像力の育成に向け、授業改善を進めるよう研鑽を積んでいただきたい。 危機管理に関しては児童の実態について共通理解を図るとともに、前年度の研修の課題を踏まえ、より具体的な場面を設定して研修を積み上げていることが評価できる。 自由が丘中学校区の3校で目指す児童生徒像に向けて、教師間でさらに交流を深め、小中一貫教育の実践に努められたい。</p>
<p>【評価Aは適切である】 各学校行事について、従前のように保護者が参観できるようになったことはよかった。また、PTA主催で愛校作業やとんど集会等が行われ、多くの保護者の協力が見られる等連携がなされている。 ホームページが随時更新され、情報発信に努められている。保護者や地域住民にとって学校の活動の様子が良く分かり、内容も充実していることは評価できる。 地域の指導者や老人会との交流など、地域とともに歩む教育活動にも取り組まれたい。</p>